

ハマボウフウの生産技術

福島県農業試験場いわき支場
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 野菜－その他生葉及び香辛類－作型・栽培型
分類コード 03-31-18000000
- 2 担当者 常盤秀夫・石郷岡典子
- 3 要 旨

ハマボウフウの軟化栽培は、主に冬から春にかけて行われている。ここでは、周年生産化に向けて、年間を通した軟化栽培を行い、時期別の生産可否や生産性を確認した。

(1)2～6月の伏せ込みでは、収穫開始までの日数は30～50日であり、1株あたりの収量は約40～60gだった。また、収穫回数ごとの一本重は、伏せ込み時期に関わらず1回目に多く、以降は減少した。

(2)6月下旬～8月上旬の開花結実期の伏せ込みでは、収穫開始までの日数が約60～140日とばらつきが見られ、1株あたりの収量が少なかった。

(3)12、1月の伏せ込みでは、収穫開始まで約60日かかるが、加温を行うことにより約30日に短縮された。

以上の結果、ハマボウフウの周年軟化栽培では、開花結実期にあたる6月下旬～8月上旬頃は新芽の再生が劣るため、伏せ込みには適さなかった。その他の時期は1株あたり約30～60gの収量が得られた。また、厳寒期の伏せ込みでは、収穫までの日数を短縮するため、17℃程度の加温が必要であることがわかった。

- 4 その他の資料など